

平成30年度
教育委員会事務事業に係る外部評価表
(平成29年度事業対象)

○実施日 平成30年10月30日(火) 午前10時00分

○場 所 せたな町役場第2委員会室

○外部評価委員

北檜山区豊岡 千葉 憲之

北檜山区丹羽 阿部 紹子

瀬棚区本町 鵜入 泰宏

大成区宮野 田嶋 潤

平成 30 年度せたな町教育委員会(学校教育)実施事業評価一覧表(平成 29 年度事業対象)

学校教育

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
					H29
1	教育委員の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の開催(10回) ・学校訪問(幼稚園1園、小中学校全8校) ・全道・管内研修会出席 ・せたな町総合教育会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会での案件審議、学校訪問での意見交換、研修会への参加など活動が円滑に行われた。 ・せたな町総合教育会議に参加し町長と委員の間で、教育について意見交換ができた。 ・新教育長制度に移行後も円滑な活動が図られた。 	自己評価どおりで良い	A
2	学校経営の円滑な推進	<ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会議における教育長示達 ・各月毎の学校経営の重点及び学校経営報告書の提出 ・教育課程の適正な管理及び次期学習指導要領移行措置の実施 ・教職員の服務規律保持の指導 ・生涯学習指導主事の学校訪問（各学期毎） 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月開かれる定例校長会議において、教育長示達の中で教育行政執行方針の具現化に努めていた。 ・各学校から毎月「学校経営の重点と経営報告書」、各学期末には「学校運営に係る自己点検票」、学年末には「教育執行方針達成度調査」の提出を求め、各校の実践事項や実情の把握に努めた。 ・教職員の服務規律等の厳守については、定例校長会議・教頭会議の中で資料を用いて指導を行った。 ・町生涯学習指導主事の学校訪問は、各学期毎の定期訪問(計24回)、教育局指導主事訪問(計16回)、必要に応じて随時実施し、各校の学校経営・学習指導・生徒指導等に関わる指導・助言を行った。 ・平成32年度小学校、平成33年度中学校で全面实施となる次期学習指導要領の移行措置期間における移行措置内容の実施に向けた指導・助言を行った。 ・次期学習指導要領の移行期間に向けた準備。 ・教職員の服務規律指導のさらなる徹底。 	自己評価どおりで良い 今後も服務規律の徹底を願う	B
3	学力の向上対策	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査及び町独自に標準学力検査を実施 ・「せたな町学力向上改善プラン」に基づく学習指導の改善 ・読書習慣の確立に向けた取り組みの推進 ・家庭と連携した家庭学習の習慣化について、各 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査については、採点結果を分析し、日常の学習指導や各学校の「学力向上改善プラン」作成に生かした。 ・町広報誌で学力・学習状況調査の結果を公表し、保護者の理解を高めている。 ・各学校においては、小学校（年度末）・中学校（年度 	自己評価どおりで良い	B

		<p>学校での取り組み推進に向けての指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中や放課後の学習指導、チャレンジテスト問題などの取り組みについて、学校の実態に合わせて行われた指導・助言 ・チャレンジテストへの全校参加 ・久遠小学校・瀬棚小学校へ教員免許を持った学習支援員を配置し、複式学級の指導支援に当たらせている。 	<p>始め) 実施の標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会作成の「せたな町学力向上改善プラン」をもとに学校独自の「学力向上改善プラン」等を作成し、学習指導等の改善に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校、日課に朝読書の時間を入れるなど、児童生徒の読書活動の習慣化に努めるとともに、学校図書室支援員を派遣することで、学校図書室の環境が整備され、読書活動が活発になった。 ・チャレンジテストへの全校参加や、長期休業中の学習日の設定、放課後学習等、学校ごとの実態に応じた工夫をしながら学力向上に取り組んだ。 ・学習支援員を配置することで、人数が多い複式学級において、授業での間接指導の際、児童の疑問やつまづきなどに適切に対応することができ、学習理解を深めることができた。 ・全国学力調査の結果から、小学校は、国語は基礎・活用とも全国平均をやや上回っているが、算数は、基礎・活用とも全国平均を下回っている。中学校は、国語・数学の基礎・活用とも全国平均を下回っており、特に数学については課題が見られる。今後も授業改善や家庭学習の充実に向けた取組みを継続していきたい。 ・全国学力・学習状況調査等の結果に基づいた学力向上プラン作成と実践。 ・家庭と連携した学習習慣定着の取組み。 		
4	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳の授業化」に向けた校内研修のための資料の作成 ・「道徳の時間」の改善・充実に向けての指導 ・「私たちの道徳」の活用に向けての指導・助言 ・参観日等における「道徳の時間」の授業公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの道徳」を活用した「道徳の時間」の改善・充実については、町内全校において日常実践及び校内研修等で取り組みがされている。 ・参観日等における「道徳の時間」の授業公開については、年間計画に位置付けられると共に、授業参観等において公開され、学校と家庭の連携した取り組みが進められた。 ・平成30年度小学校で全面実施となる「道徳の教科化」 	自己評価どおりで良い	B

			<p>の円滑な実施に向けての準備が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度中学校で全面実施となる「道徳の教科化」の円滑な実施に向けての準備。 		
5	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会の年3回の開催と連携協議会だよりの発刊 ・「個別の教育支援計画及び指導計画」の作成 ・「特別支援教育支援員」の配置 ・「せたな町特別支援教育体制機構図」の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会を年3回開催し、教育・福祉・行政等の関係機関が連携し、実態把握・情報交換を行うとともに、連携協議会だよりを年3回発刊し、保護者・地域への啓発活動を行った。 ・「特別支援教育連携協議会」と「教育支援委員会」を中心に、町内の特別支援教育の体制が明確になった。 ・就学前の幼児を対象にした就学児知能検査、2次検査、保護者への通知、必要に応じての保護者との面談、教育支援委員会での審議の有無等の流れが明確になった。 ・当該学校では、特別支援学級在籍者を中心に、長期的支援を見据え「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成が定着している。 ・特別支援教育支援員は、町内1園6校に計16名が配置され、特別な支援を要する児童生徒の生活・学習支援を行い、児童生徒のつまづきなどに随時対応することができた。 <p>(北檜山幼稚園4名、北檜山小学校5名、若松小学校1名、瀬棚小学校1名、久遠小学校1名、北檜山中学校3名、大成中学校1名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会を通して、幼・保・小・中高・養護学校と福祉等の行政機関が連携することで、情報交換、啓発活動など綿密に行われ、町内の特別支援教育が前進している。 ・各学校・家庭において、特別支援教育支援員の配置要望が多くなってきているが、募集してもなかなか応募者が希望人数に達しないため、日頃より人材確保に努める。 	自己評価どおりで良い	A
6	外国語指導助手（ALT）等の派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT 各中学校週1～2回派遣 馬場川小に月1～2回派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手（ALT）を各中学校へ週1～2回派遣した。ALTは教科担任と打ち合わせて活動計画を作成 	自己評価どおりで良い	A

		<p>(火…瀬棚中 水…北檜山中 木…大成中) 馬場川小に月1～2回、北檜山小へ2ヶ月に1回程度派遣</p> <p>・J-A L T 各小学校週1回派遣 (火…北檜山小・馬場川小、水…若松小、木…久遠小、金…瀬棚小)</p>	<p>し、学習が進められた。</p> <p>・小学校5・6年の外国語活動が必修となったことから、町独自にJ-A L Tを雇用し各小学校に週1回派遣した。指導に当たっては、担任とJ-A L Tが打ち合わせて活動計画を作成し、児童が楽しみながら英語の語学力を身につける学習が進められた。</p> <p>・希望する小学校については、A L Tの空き時間を活用しての追加派遣をし、ネイティブ英語に触れる機会やコミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>・平成30年度の小学校外国語活動でのA L T/J-A L Tの活用について、方向性を明確化した。</p> <p>・平成29年度からの小学校外国語活動の実施学年と時数増に関わり、A L Tの複数化。</p> <p>・子どもたちの英語でのコミュニケーション能力を育成するための外国語活動以外でのA L Tの活用。</p>		
7	生徒指導の充実	<p>・各学校での全教職員による生徒指導体制の確立</p> <p>・道教委のスクールカウンセラー派遣（拠点校：北檜山中学校・年12日）</p> <p>・生涯学習指導主事への相談（学校訪問及び随時）</p>	<p>・各学校においては、いじめ防止基本方針をもとに、管理職を中心に組織的な対応が進められた。</p> <p>・教委では不登校対策、中1ギャップ、小1プロブレム、いじめ対策等の指導を行った。</p> <p>・いじめ対策については、全校で年間最低2回の「いじめアンケート」や教育相談が実施され、未然防止・早期発見・早期対応の取り組みが行われた。</p> <p>・北檜山中学校へ道教委のスクールカウンセラー派遣を継続し、学校と連携して不登校生徒の対応に当たった。</p> <p>・今年度の、町内で90日以上欠席の不登校児童・生徒数は、5名（小学校1名、中学校4名）であった。30日以上となると、更に4名増え（小学校2名、中学校2名）継続した指導支援が必要である。</p> <p>・町教委としては、不登校児童生徒の状況について毎月報告を求め、実態把握に努めるとともに、町指導主事が必要に応じて各校を訪れ、いじめ・不登校についての情報収集や対応等について指導助言を行った。</p>	自己評価どおりで良い	B

			<ul style="list-style-type: none"> ・校内で生徒指導に関する研修会等を開催し、教職員同士の情報を共有し、共通理解を図っている。 ・不登校生徒の解消に努める。 		
8	教職員の資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における校内研修の促進 (檜山教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問) ・せたな町教育研究会の充実 (町教育研究大会の開催、今金町との2町授業交流会、サークル活動の活発化) ・町内各種教育団体への支援 (生徒指導連絡協議会、特別支援学級教育研究会、へき地複式教育研究会等) ・北海道教育研究所、檜山教育局主催の研修講座への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校では、研修部を中心に研修計画が立てられ、それに沿って校内研修が推進されていた。 ・教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問は、予定どおり進められ、各校の経営状況や児童生徒の実態把握、その後の指導・助言に大いに役立った。 ・町教育研究会及び町内各種教育団体の活動は、予定どおり活発に行われ、教職員の資質向上に寄与した。 ・各種研修事業については、道研、ミニ道研、学力向上に関する研修会、生徒指導研などに参加している。 ・平成28年度より各学校においてアレルギー研修を実施。 ・研修へのさらなる参加を促す。 ・新しい研修機会の拡充と支援。 	自己評価どおりで良い	B
9	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養教諭による食育推進事業」(学校栄養教諭による各学校における「食に関する指導」及び「栄養指導」) ・職場体験学習実習生の受け入れ ・学校給食だよりの発行(毎月) ・安全安心な地元食材の活用 ・せたな産食材を使用した「ふるさと給食」の提供 ・町内のアレルギー児童生徒の把握と必要に応じた対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校において、栄養教諭による食に関する指導の授業を実施し、児童生徒の食に対する意識を高めることができた。 ・PTAや地域と連携した地元食材を使った調理実習や食育講習会の開催など、各校で行われた食育教育の推進を図ることができた。 ・給食センターと学校が連携して、食物アレルギーをもった児童生徒の情報を共有し、給食時間の事故の未然防止を図ることができた。 ・アレルギーによる事故を未然に防ぐため、また、事故が起きても被害が最小限に止まるよう、アレルギー児童生徒の適切な把握と研修の充実を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
10	幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度入園児童数 23名 (3歳児8人 4歳児8人 5歳児7人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活を通して友だちと関わりながら基本的な生活習慣や道徳性を身につけるなど、就学前幼児教育がなされている。また、特別支援を必要とする園児には、保護者の同意を得ながら特別支援教育支援員4名を 	自己評価どおりで良い	A

			配置し、個に応じた支援を行った。 ・認定こども園に移行後の連携方策。		
1 1	学校健診事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒内科検診 473名実施 ・児童生徒尿検査 477名実施 ・児童生徒歯科検診 473名実施 ・児童生徒心臓（心電図）検診 98名実施 ・児童生徒耳鼻咽喉科検診 248名実施 ・中体連駅伝選手心臓検診 16名実施 ・児童生徒眼科検診 457名実施 ・就学時検診 39名実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と関係機関との連携の下で、学校保健法に定められている各種健診を計画的に実施し、児童生徒の健康管理に努めることができた。 ・児童生徒が内科・歯科検診を欠席した際の対応が、「受診しない」「養護教諭が後日引率する」等各校でばらばらである。大規模校であれば引率も難しいため、後日、保護者が病院・診療所へ連れて行く等の対応について、学校・病院・教委で打合せをしたい。 	自己評価どおりで良い	A
1 2	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・経営方針の説明、学校だよりの配布 ・学校評議員の委嘱 ・学校支援地域ボランティアの人材を外部講師として招聘 ・学校運営協議会の設置（瀬棚小・若松小・北檜山小・瀬棚中・北檜山中） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校では、年度当初の参観日等で経営方針の説明を行うとともに、学校だより等で日常の児童生徒の様子を保護者や地域に知ってもらえるよう努めた。 ・学校評議員の視点から、学校経営等について意見をいただき、地域の意向を把握した学校運営が行われた。 ・学校支援地域ボランティアについても、各校の計画に沿って積極的に活用された。 ・学校評価については、自己評価（学校評価、児童・生徒評価、保護者評価等）が実施され、それらの結果については、PTAや参観日、学校だより等を用いて公表された。 ・平成31年度中に全ての学校に学校運営協議会を設置するための調整、支援。 	自己評価どおりで良い	B
1 3	子どもの安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での「危機管理マニュアル」及び「火災や地震時の防災訓練」の点検・見直し、及び学校の立地条件に応じた火災・地震・津波・洪水などの実践的な対処や訓練の実施に向けての指導・助言 ・交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室等の実施に向けての指導・助言 ・各区毎に地域の関係機関・団体との情報交換を行い、町内安全パトロール実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における「危機管理マニュアル」の点検と見直しが行われ、災害時における立地条件に即した対処・訓練が行われた。 ・各学校では、防犯訓練・防犯教室など実際の場面に即した訓練を実施することで、危機管理下における児童生徒の安全確保を図った。 ・各区内の関係機関・団体と連携しながら、登下校時や帰宅後の安全指導、及び祭典時の巡回指導などに努めた。 	自己評価どおりで良い	B

		<p>(子どもの安全を守る連絡協議会～夏休み前に開催) (生徒指導連絡協議会～各学校の決まり確認、子どもの様子等の情報交流、研修会の開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せたな町通学路安全推進協議会を設置し、「通学路交通安全プログラム」を作成、プログラムに基づいた、町内各学校の通学路の確認・点検・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町通学路安全推進協議会を開催し、各校の危険箇所についての確認、関係職員等と点検を行い、危険箇所の改善がされた。 ・薬物乱用については、これからは低年齢化が危惧されるため、小学校から発達段階に即した指導や、薬物乱用防止教室の全校での開催も必要になっている。 		
1 4	児童生徒への就学援助	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護世帯 小学生 2世帯 3名 中学生 2世帯 3名 計 6名 ・準要保護世帯 小学生 31世帯 39名 中学生 32世帯 38名 計 77名 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携のもとで、経済的援助を必要とする世帯に対して学用品費・修学旅行費等への支援ができた。 ・平成28年度支給対象の拡大 	自己評価どおりで良い	A
1 5	学校教育環境の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬棚小学校トイレ改修工事 (校舎1階に多目的トイレ設置) ・瀬棚中学校屋上防水改修工事 ・北檜山中学校水道管改修工事 ・北檜山中学校バリアフリー化工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる学校はあるが、児童生徒が安全安心な学校生活を送るため、必要箇所の修繕については随時実施し適正な維持管理に努めた。 ・課題としていたトイレの洋式化や多目的トイレ設置・バリアフリー化等、随時実施し適正な維持管理に努めた。 ・各学校のトイレ洋式化・多目的トイレの計画的な設置、各学校のバリアフリー化等計画的に進められている。 ・老朽化した校舎の改修等の実施 	自己評価どおりで良い	B
1 6	教育の情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器 備品購入事業 タブレット27台(北檜山小) ・中学校教師用パソコン購入事業 大成中15台・瀬棚中13台・北檜山中18台 ・学校ネットワーク構築業務 町内中学校の校内LANを再整備、無線アクセス環境整備、役場内学校教育用システムと接続し各種サービス利用を可能とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を活用した授業の工夫・改善が図られた。 ・ICTを活用したことにより生徒の授業への集中がみられる。 ・授業・文化祭などで児童生徒が工夫して活用した。 ・教員のICT活用指導力の向上の調査・研究 ・中学校パソコン教室の環境整備 ・各学校でタブレットを活用した授業改善 	自己評価どおりで良い	B

17	フッ化物洗口事業の推進	<p>・各学校で保護者から実施について承諾の得られた児童・生徒に対して実施を行った。</p> <p><平成29年5月末 実績></p> <p>久遠小 34名・瀬棚小 54名・馬場川小 0名 若松小 5名・北檜山小 169名・大成中 20名 瀬棚中 34名・北檜山中 82名</p> <p>計 398名 (実施率 83%)</p>	<p>・実施している児童・生徒の歯・口腔の健康増進につながった。</p> <p>・未実施になっている保護者への啓発の方法について検討が必要。</p>	自己評価どおりで良い	A
----	-------------	--	--	------------	---

平成 30 年度 せたな町教育委員会実施事業評価一覧表(平成29度事業対象)

社会教育

推進項目 (事業名)		事業の目的 (目標)	実施状況	自己評価 (成果と課題)	外部評価委員意見	評価
						H29
18	幼児教育の推進①	幼児教育に関する学習機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・12/7 「木育」木のおもちゃにふれよう！ 参加者 18名 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子が集まり情報交換する時間や子どもたちが木のぬくもりに触れる時間を提供できた。また、子育てをする親に対して幼児教育に関する学習機会の提供ができた。 ・プログラムの充実を計画したが、1講座のみとなった。 ・計画的な実施が必要である。 	自己評価どおりで良い	C
19	幼児教育の推進②	子育ての情報交換や交流の場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業 (月1回) ・ボランティア 14名 ・対象者 36名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートボランティアが先輩ママとなり、子育てに関する情報提供を行えた。 ・ブックスタート以外の交流の場を提供できなかった。 ・実際に子育てを行っている保護者のニーズを把握しながら進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
20	幼児教育の推進③	関係機関や団体等との連携と協力体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・「木育」木のおもちゃにふれよう！ →檜山森林室との連携 ・ブックスタート事業 (月1回) →ブックスタートボランティアとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートボランティア等の団体と連携し協力体制の確立を図ることができた。 ・徐々に連携の拡大が図られてきた。 ・今後も関係機関と連携し、ニーズに対応したプログラムを計画的に実施する必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
21	少年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動などの学習機会の提供	<p>生涯学習講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/1 性教育分野 (北檜山中) ・3/8 性教育分野 (大成中) ・10/27 地域学習分野 (瀬棚中) <p>放課後休日体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/6・9/1 育苗体験 ・10/28 カレーライスづくり ・12/27～28 あさかつ事業 <p>ふるさと学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/23 森林学習 (北檜山小)・9/8(久遠小) <p>中学生派遣事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道ジュニアリーダーコース派遣 (瀬棚中 3名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から学童保育所を対象に事業を実施することで少年期に対して様々な事業提供が可能となった。また、少年期を対象とした事業数は年々上昇傾向であり様々なプログラムが提供できている。 ・H30年度放課後休日体験活動とし、「農業体験」を実施し、徐々に学習機会の充実が図られてきた。 ・今後も計画的に学習プログラムを提供していく必要がある。 	自己評価どおりで良い 学童保育所に関しては全ての地区の要望に対応願う	B

2 2	少年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した学習活動の拡充	<p>素敵にアート教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/30 うちわ作り 30名 ・12/24 プラネタリウム作り 21名 <p>放課後・休日体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/26 カーリンコン交流会 28名 <p>学校支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキー指導（各小学校）全15回 	<ul style="list-style-type: none"> ・檜山北高校・地域住民と連携し異世代交流を図ることができた。また、地域で行われている活動を子どもたちに伝える機会となった。 ・年間を通じた事業計画を打合せすることにより、檜山北高等学校との連携がスムーズに行われた。 ・計画的に小中学生・高校生・高齢者の異世代交流を図っていくことが必要である。 		B
2 3	青年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動等を通じて主体的に学ぶ意欲を高める学習機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度において実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に青年教育を進める必要がある。 	自己評価どおりで良いが、改善願いたい	D
2 4	青年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した活動がしやすい環境の整備	<p>放課後・休日体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/26 カーリンコン交流会 28名 再掲 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生・地域住民が交流する機会の提供ができた。 ・青年活動としての取組みができなかった。 ・青年を中心とした異世代交流の機会を積極的に提供する必要がある。 	自己評価どおりで良いが、改善を願いたい	D
2 5	青年教育の推進③	地域担い手としての自覚を促す学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・8/10 異業種若手研修会 23名 ワークショップ等 ・3/9 異業種若手研修会 20名 軽スポーツ交流等 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の実施により、若者が集まり町の活性化について話す機会となった。また、地域の担い手として、自覚を促す学習機会の提供ができた。若手職員に対する学習会を検討する必要がある。 ・新しい取組みができた。 ・今後も学習機会を継続して提供し意識を高める必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
2 6	青年教育の推進④	リーダーとなりうる人材の育成	<p>檜山北高ボランティア活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/28 カレーライスづくり 再掲 ・12/26 カーリンコン交流会 再掲 ・12/27～28 あさかつ事業 再掲 <p>異業種若手研修会（2回）再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業を通して、リーダー育成に努めた。 ・徐々にリーダー育成の機会が拡充されてきている。 ・今後も高校生をはじめ青年層と連携した事業の実施によりリーダー育成を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	C
2 7	成人教育の推進①	地域づくりへの理解と認識を深めるための学習	<p>生涯学習講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/9 美容と健康 26名 ・11/18 キャンドル作り 9名 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内講師の活用により、地域づくりへの理解と認識を深める学習機会の提供ができた。 ・様々な趣味教養に対応した幅広い学習機会の提供が必要で 	自己評価どおりで良い	B

		機会の提供	・地域学校協働活動	ある。		
28	成人教育の推進②	地域活動への参画支援	・せたな町PTA連合会補助金 190,000円 ・地域学習促進事業 馬場川わいわい倶楽部他 10講座 ・女性活動促進事業 癒やしのハンドマッサージ教室 15名	・地域学習への支援により地域住民の主体的活動ができた。 ・女性会は解散したが、女性の活動促進に対して支援が行えた。 ・女性活動や住民主体の自主的学習への継続した支援が必要である。	自己評価どおりで良い	B
29	成人教育の推進③	地域人材の把握と教育活動への参加促進及びリーダーの育成	・12/19 地域学校協働活動研修会 37名 ・地域学校協働活動ボランティアの募集 ボランティア登録数 北檜山区51名、瀬棚区36名、大成区37名	・地域と学校が連携するための体制整備が進められた。 ・コミュニティ・スクールを支援するための体制整備を進めている。 ・コミュニティスクールに対応した体制整備を進める必要がある。	自己評価どおりで良い	B
30	成人教育の推進④	家庭教育に関する学習機会の支援と家庭・学校・地域の連携	生涯学習講座 ・9/29 家庭教育ナビゲーター育成 16名 ・3/8 家庭教育に関わる研修会 瀬棚中PTA 19名	・家庭教育に関するリーダー養成が図られた。 ・PTAを対象にすることで保護者と教員が子どもたちの様子を話し合うきっかけづくりとなった。また、子どもたちの課題について共有する機会が提供できた。 ・学校を核とした家庭教育を進めることができた。 ・全ての学校へ家庭教育に関する取り組みを進める必要がある。	自己評価どおりで良い	B
31	高齢者教育の推進①	高齢者の知識や経験を地域に生かす社会参加活動の支援	・5/30・7/27 花壇に花植ボランティア(北小) ・地域学校協働活動ボランティア登録	・花壇の花植えを通し、それぞれが経験を生かし子供たちの指導や補助を行うことができた。 ・ボランティア登録はされているが、活用は不十分。 ・ボランティアの積極的な活用が必要である。	自己評価どおりで良い	C
32	高齢者教育の推進②	異世代交流などの場の提供と拡充	・5/30・7/27 花壇に花植ボランティア(北小) 再掲	・高齢者と子供が交流する機会が提供でき、高齢者にとって経験を生かす機会となった。 ・活動機会の提供が不十分である。 ・各種事業において高齢者の参加機会を設ける必要がある。	自己評価どおりで良い	C
33	高齢者教育の推進③	いきがいを高める多様な学習機会の充実	各区の高齢者大学の開設 ・北檜山51名 瀬棚11名 大成25名 ・3区合同事業(入学式・修学旅行・修了式)	・各区それぞれ特色を生かした活動が進められた。 ・学生の要望や社会情勢の動きを取り入れた学習が行われ、それぞれ充実した内容となっている。 ・合同事業では、区を超えた学生相互の交流が図られた。 ・計画的に行われた。 ・多様な学習機会を提供していくためにプログラム内容の工	自己評価どおりで良い	A

				夫が必要である。		
34	芸術文化の推進①	芸術・文化に関する鑑賞機会の提供と内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・12/11 「ひのき屋」コンサート 鑑賞者 小中学生約 500 名 ・11/23 人形劇フェスティバル in せたな 鑑賞者 約 200 名 荻野吟子 120 周年記念事業 <ul style="list-style-type: none"> ・文化講演会「対馬るり子」鑑賞者 33 名 ・スポーツ講演会「京谷和幸」鑑賞者 52 名 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、芸術文化に触れる機会が少ないことから、ニーズに対応した鑑賞機会を提供することができた。 ・様々な鑑賞機会を計画的に提供できた。 ・講師の選定について検討が必要。 	自己評価どおりで良い	A
35	芸術文化の推進②	文化団体の育成と自主的活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町文化協会補助金 200,000 円 ・せたな町民文化祭実行委員会補助金 500,000 円 町民文化祭 (3 会場) <ul style="list-style-type: none"> ・展示 北 11/4・5 瀬 10/28・29 大 11/4～6 ・発表 北 11/12 瀬 11/12 大 11/11 新春書初め大会 19 名	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められている。また、各団体と連携した事業の展開により団体活動の活性化が図れた。 ・H30 年度せたな町民芸術鑑賞実行委員会を立ち上げ更に充実に図る。 ・今後は後継者を図る取組みについて検討する必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
36	文化財保護の推進①	文化財・郷土資料の保護・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・7/26・28 「子ども考古学教室」 9 名 ・8/2・3 「子ども歴史教室」 7 名 ・10/3～10/29 特別展示「せたな発掘物語～豊岡 6 遺跡編～」 57 名 ・11/28～12/17 特別展示「むかし、懐かし黒電話展」 14 名 ・12/26 「瀬棚の縄文時代」 22 名 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等の保護については、文化財保護審議員と連携し適正な維持管理を行った。 ・特別展示を行い、小学生から一般町民に対し広く、文化財保護の啓発・普及を図られた。 ・文化財を活用した講座を行い、文化財に関する学習機会の提供が図られた。 ・専門職員の配置により適切な維持管理ができるようになった。 ・文化財保護の基盤である、埋蔵文化財台帳の整備、資料館収蔵台帳の作成が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
37	文化財保護の推進②③	郷土芸能伝承活動の推進・発表等の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町郷土芸能団体連絡協議会補助金 115,750 円 ・大成中学校の総合的な学習の時間での指導業	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められ、町外イベントへ自主的に参加している。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取組みとして 	自己評価どおりで良い	B

		による後継者の育成	務 (久遠神楽)	郷土芸能の伝承ができた。 ・ 伝承活動を継続できるよう今後も支援が必要。 ・ 大成中学校の生徒数の減少により、各パート構成が困難に成りつつある。今後の伝承活動の方向性も検討する必要がある。		
38	国際交流の推進①	国際感覚を身につけるための学習機会の提供	・ 少年少女英会話教室 29日間 小学校3~4年 15名 ・ 初級者英会話教室 29日間 一般 16名 ・ 上級者英会話教室 7日間 一般 16名	・ レベル別を実施することでそれぞれのレベルに応じた学習機会の提供ができた。 ・ H30年度幼児英会話教室及びینگリッシュキャンプの実施 ・ 幼児から高齢者まで幅広い年齢層に学習機会の提供を行い町内の国際交流の推進を図る必要がある。	自己評価どおりで良い	B
39	国際交流の推進②	姉妹都市交流における青少年・成人交流の推進	・ せたな町姉妹都市交流推進協議会補助金 150,000円 ・ 5/25 ジョン神塚ピアノコンサート 111名	・ ジョン神塚氏ピアノコンサートでは、町民と連弾を行うなど町内国際交流の推進を図ることができた。 ・ 派遣事業は国際交流全般にわたる活動へシフト ・ 姉妹都市交流事業は停滞している。 ・ 国際交流全般にわたる新しい取り組みに向け補助団体と調整を進める必要がある。	自己評価どおりで良い	C
40	国際交流の推進③	留学生受け入れ家庭の拡充	・ 受入れ家庭が確保できていない。	・ H30年度 派遣事業 ・ 受入れ家庭が確保できない実態のため、派遣事業を進める際受け入れ家庭の確保も同時に進める。	自己評価どおりで良い	D
41	読書活動の推進①	ブックスタート事業の推進	・ ブックスタートパックの配布 3ヶ月健診時 対象 36名 ・ 1.6歳、3歳、5歳児健診時の読み聞かせ ・ 12/7 ブックスタート研修会 手作りおもちゃ研修会 ボランティア 5名	・ 乳幼児から絵本に親しむ環境づくりとして定着している。 ・ ブックスタート後から、図書施設へ足を運ぶ家庭が増えている。 ・ フォローアップは絵本やパネルシアターに興味を示す幼児が増え、日頃から家庭で本を読んでいる環境が多く見受けられる。 ・ 乳幼児～幼児の遊びや生活に関する知識を身に付ける研修を行い、実践に活かしている。 ・ 今後も継続し、本に親しむ機会の充実を図ることが必要。	自己評価どおりで良い	A
42	読書活動の推進②	図書館・学校図書館・関係団体との連携協力による読書活動の充実	ブックフェスティバル ・ 7/11 北小 7/18 久小 10/26 瀬小 図書館 de カフェ ・ 情報センター 9/28、2/1 ・ 大成図書館 6/6、10/17 ・ 瀬棚図書センター 8/3~6	・ 計画的な事業実施により読書へ親しむ子どもの数は増加している。また、各事業を各区で実施することで町内全域の読書活動推進を図る取り組みができた。 ・ H30年度からの5年間読書活動推進計画作成 ・ H30年度から読書推進計画に基づく予算の確保をしなければならない。	自己評価どおりで良い	A

			<p>移動図書館ブックン（若小・馬小）7/6、12/14 読み聞かせイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北檜山区：おはなし広場 ・大成区：図書館イベント <p>ブックスタート研修会（再掲） 学校図書室支援員派遣 53回</p>			
4 3	読書活動の推進③	読み聞かせなど子どもに関わる読書ボランティア活動の育成	<p>ボランティア活動奨励・研修会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録 18名 ・読み聞かせイベント ・ブックフェスティバル ・図書館 de カフェ ・移動図書館ブックン ・読み聞かせイベント ・ブックスタート研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り活動が実施できた。 ・ボランティアが固定化されているので新しいボランティアの育成が必要である。 	自己評価どおりで良い	A
4 4	読書活動の推進④	図書・視聴覚などの学習教材の充実	<p>図＝図書購入（一般書・児童書・専門書等） 雑＝雑誌 新＝新聞 D＝DVD等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報センター 図 354冊 雑 152冊 新 2種 D0本 ・大成図書館 図 396冊 雑 204冊 新 2種 D0本 ・瀬棚図書センター 図 203冊 雑 108冊 新 0主 D7本 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書等の充実により、読書活動の推進が図られた ・計画通り進めることができた。 ・生涯学習センター図書室の充実を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
4 5	生涯スポーツの推進①-1	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・5/27 ルディックウォーキング講習会 14名 ・3/21 元気なカラダづくり教室 11名 ・6/11 スポーツアカデミー1 (コンサドーレサッカー教室) 小中学生 84名 ・9/30-10/1 スポーツアカデミー1 (ファイターズ野球教室) 講習：指導者 13名 実技：小中学生 93名 ・3/7 スポーツアカデミー1 (東海大女子バスケット部) 小中学生 44名 ・11/18 スポーツアカデミー2 (サッカー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室とも、専門知識の習得や運動の基礎、実践を学習する機会として大いに活用されており、競技力向上や基礎体力向上の促進につながっている。 ・年代別に、多種目の学習機会が提供できている。 ・参加者が固定しているため新しい学習者の発掘が必要である。 	自己評価どおりで良い	A

			<p>指導者 5 名・小中学生 24 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/19 スポーツアカデミー 2 (野球) 指導者 8 名・小中学生 50 名 ・5 月～10 月 全 6 回 キッズ体操教室 就学前児童 30 名 ・1 月～3 月 全 3 回 キッズ運動教室 就学前児童 22 名 ・6 月～10 月 全 4 回 訪問キッズ体操教室 園児 46 名 ・8/8～10 幼児水泳教室 5.6 歳児 6 名 ・7/26～28, 7/31～1 初心者水泳教室 小学 1.2 年生 46 名 ・7/31, 8/2 水泳フォローアップ教室 小学 3.4 年生 6 名 ・7 月～8 月 全 5 回泳力検定向けレベルアップ水泳教室 小中学生 20 名 ・1/10～12 初心者スキー教室 小学 1.2 年生 17 名 ・1 月全 5 回 大成スキー教室 32 名 			
4 6	生涯スポーツの推進①-2	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・7/30 みんなで歩こう会 (吟子ロード) 68 名 ・10/7 町民駅伝競走大会 9 チーム 40 名 ・12/17 子ども体力チャレンジ祭 36 名 ・町民スキー大会 (インフルエンザで中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との連携のもと、計画通り進められており、スポーツ活動の促進が図られている。 ・スキー協会の状況から、スキー協会主催としての開催は困難である。 ・参加者拡大のための情報提供や連携が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
4 7	生涯スポーツの推進②	誰でも気軽に行うことができる軽スポーツ等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・12/26, 1/30 カーリンコン普及事業 58 名 ・3/18 バブルサッカー普及交流大会 68 名 ・町民スポーツ交流会 (中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリンコンの体験会及びバブルサッカーの交流大会を開催し普及ができた。 ・徐々に情報提供が進められてきた。 ・町民への競技紹介が必要。 	自己評価どおりで良い	B
4 8	生涯スポーツの推進③	スポーツ団体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町体育協会補助金 743,000 円 ・せたな町スポーツ少年団連絡協議会補助金 950,000 円 ・キャンプタウンきたひやま推進の会補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動活性化が図られた。 ・各団体の運営に対する活動費助成や支援が出来た。 ・計画通り支援ができた。 	十分行われているので評価は B ではなく A としたい	B

			<p>344,000 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せたな町スポーツフェスタ実行委員会補助金 <p>147,968 円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブとの連携・支援各開催事業への後援 			
49	生涯スポーツの推進④	指導者の養成	<p>4町連携 ファイターズ野球</p> <p>9/30 スポーツアカデミー1 日本ファイターズコーチによる指導者講習会指導者 13名再掲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロチームの指導による専門的知識を習得することができた。 ・スポーツアカデミーを継続し指導者育成を図る。 	自己評価どおりで良い	B
50	海洋スポーツの推進①	青少年に対する自然観察などを含めた体系的な学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・4/25, 10/20 海の自然観察会（海藻押花） ・6/12 川の自然観察会（講話） ・7/7 7/19 水辺の安全教室着衣泳（再掲：海洋②） ・8/30 海の自然観察会（漂流物調査） ・8/29, 9/9 森の自然観察会 ・10/19 海の環境を守る植樹教育活動（植樹祭）他7件 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取組みとして定着している。 ・対象校の拡大により、地域の資源を使い充実した内容、水辺の安全について提供できている。 ・北小 水プロの実施 久小 プログラムの提供 ・継続した活動を進めるため、水プロを学校と連携して実施する他、要望に応じた学習機会の提供を図る必要がある。 	十分行われていると思うのでA評価としても良いと思うが、改善が必要な部分があるということなので自己評価どおりで良い	B
51	海洋スポーツの推進②	水の事故を防ぐための安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・7/8 ライフセービング教室 4名 ・7/7, 19, 9/4 水辺の安全教室着衣泳体験 瀬小全児童・北小4年生・久遠小5, 6年生 	<ul style="list-style-type: none"> ・着衣泳の実施対象校の拡大により、水辺の安全について多くの子どもたちに伝えることができています。特に、夏休み前に実施している学校については、夏休み中の水上事故を防ぐことに繋がっている。 ・関心が高まり、実施回数が増えてきている。 ・水の事故を防ぐため、多くの町民の関心を高めるよう、海洋スポーツの普及啓発が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
52	海洋スポーツの推進③	マリンスポーツ体験や講習会等の学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・6/24 プールでOPヨット体験会・カヌー体験会 小学生8名 ・7/17 海の日（カヌー・SUP・セイリング）教室 4名 ・9/2 カヌーで川下り体験 10名 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・天候により実施できないプログラムもあったが、中でのレクリエーションに切り替えるなどし、体験活動を提供することができた。 ・北檜山区からも参加が増え、固定化が少しずつ解消されている。 ・天候に左右されるため、代替プログラムの充実を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	B

5 3	海洋スポーツの推進④	海洋クラブ・指導者会の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・海海洋クラブ補助金 278,000 円（大会派遣 4 名・アカデミー派遣 3 名） ・6/28～29 リーダー養成研修会 11 名 	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣事業を通し、町内で学ぶことのできない体験活動を提供できている。 ・指導者養成は、計画的に実施していくことが必要であるため、今後も継続して実施する。 ・計画通り進めることができた。 ・指導者会との円滑な連携強化が必要である。 	十分行われていると思うのでA評価としても良いと思うが、改善が必要な部分があるということなので自己評価どおりで良い	B
5 4	海洋スポーツの推進⑤	専門指導職員の育成・配置	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者養成研修会（沖縄県） 教委職員 1 名 ・6/28～29 リーダー養成研修会 11 名 再掲 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターインストラクターを養成し、海洋センター専門職員を増員し、指導者体制を整えることができています。 ・一般の利用を受け入れている7～8月には、養成したリーダーを活用し指導体制の充実を図ることができている。 ・計画通り育成、配置ができた。 ・B&G運営に必要な専門指導職員の配置の他、各種事業を進めるためのリーダー養成を計画的に進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
5 5	社会教育・社会体育施設の整備①	施設機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町生涯学習センター整備工事 176,040,000 円 ・情報センター照明器具取替工事 1,209,600 円 ・B&Gプール濾過機濾材交換修繕 1,080,000 円 ・大成農村広場舗装改修工事 17,172,000 円 ・真駒内球場埋設給水管布設替工事 810,000 円 ・町民プール新築工事实施設計業務 22,464,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設とも住民の日常活動及び社会教育・社会体育事業の拠点として効果的に利用されているため、必要に応じた整備が実施できた。 ・計画通り進めることができた。 ・今後も改修・整備については、計画的に進めていく必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
5 6	社会教育・社会体育施設の整備②	施設の総括的かつ効率的な維持と運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターの展示設計及び必要備品・消耗品の選出 ・平成30年2月8日に生涯学習センター完成 ・町民プール新築工事实施設計業務 22,464,000 円 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターの郷土資料室の展示設計を終えることができた ・生涯学習センターの図書室のワイヤを終えることができた。 ・実施設計業務について業務の完了ができた。 ・計画通り進めることができた。 ・生涯学習センターのオープン後、施設の有効活用を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	A

(評価指標) **A** 十分達成されている **B** おおむね達成されている **C** やや不十分である **D** 不十分である